

# 『いのち』を考える

あなたにとって「いのち」とは

① 5月16日(金)



## 山田 邦男

大阪府立大学名誉教授

### 「それでも人生にイエスと言う」

私たちは誰も生きがいある人生を送りたいと願っている。では、生きがいとは何であり、またそれはどのようにして実現されるのであろうか。この問題について『夜と霧』の著者であるV・E・フランクルの考えを手がかりにして考えてみたい。

② 5月23日(金)



## 小達 一雄

(財)夏目雅子ひまわり基金理事長

### 勇気の中にあなたがいる ～生きること、伝えたいこと～

家族とともに「夏目雅子ひまわり基金」の活動をしてきました。昭和60年、急性骨髄性白血病で亡くなった妹・夏目雅子。自らの病と対峙しながらも死を目前に東日本大震災で被災された方を気遣いながら亡くなった妻・田中好子。二人を通して関わってきた社会と生に対する前向きな思い、優しさをお話しいたします。

③ 5月30日(金)



## 柏木 哲夫

金城学院学院長  
淀川キリスト教病院理事長

### 使命と運命

「使命」とは「命を使う」と書く。何のために自分の命を使うかは人によってかなり異なる。一人ひとりの使命は異なるからである。「運命」は「命を運ぶ」と書く。命を運ぶのは超自然的な力である。東日本大震災の経験から使命と運命について学んだことをお話ししたい。

④ 6月6日(金)



## 玉木 幸則

西宮市社会福祉協議会  
障害者総合相談支援センターにのみや センター長

### 「生まれてきてよかった～誰もが安心できる共生のまちづくり～」

障害があろうとなかろうと、誰もが生まれてきたかぎり「しあわせ」を追い求めて生き続けているはず。だけど、様々な理由により、生きづらさを感じている人もいます。その生きづらさをみんなで分かち合いながら「生まれてきてよかった」と思える生き方ができると良いですね。

⑤ 6月13日(金)



## 清水 康之

特定非営利活動法人  
自殺対策支援センターライフリンク代表

### 安心して悲しむことのできる社会へ

人生における最大のライフイベントは「大切な人との死別」である。それは、誰もが経験する現実でもある。しかし、私たちの社会には大切な人との死別を強いられたうえ、安心して悲しむことすらできずに苦しんでいる人たちがいる。その遺族たちとの出会いから感じたことをお話しします。

⑥ 6月20日(金)



## 小山 明子

女優、エッセイスト

### 妻として・女優として ～夫・大島渚と過ごした日々～

映画監督 大島渚が突然の病に倒れ、妻として介護に携わった17年間の日々。その間、介護うつを乗り越えてきました。介護を通して学んだこと、見えてきたこと、晩年に二人で共に過ごし夫を取ったこと。それらの体験から、これからの生き方についてお話ししたいと思います。